

1 . 評価結果概要表

作成日 平成 22年 2月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0 1 7 0 2 0 2 8 0 8		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌太平サンフラワー		
所在地	札幌市北区太平7条6丁目6-14 (電 話) 011-775-6477		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年2月22日	評価確定日	平成22年3月4日

【情報提供票より】(平成 22年 2月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 2人、	非常勤 15人、 常勤換算 14.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:20,000円 暖房費:15,000円(11-3月)
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(45,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日あたり 円		

(4) 利用者の概要(2月 8日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	2 名	要介護 2	4 名
要介護 3	7 名	要介護 4	3 名
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 78 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	昂希内科クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外のJR駅から徒歩で数分の便利な住宅地の中にあるグループホームである。建物は新しく清潔でゆったりとしており、トイレや風呂、洗面所、手すり、エレベータなどバリアフリーの行き届いた設計が施されている。サービス面では介護計画やモニタリングシート、マニュアルなどの書類が見やすく整備され、計画的なケアプランの作成と見直しが実施されている。外出行事やホーム内での行事も内容が豊かで頻度も多く、利用者の介護度が重くなっている中での管理者や職員の努力が伺える。職員同士の人間関係も良好で、職員は理念に沿って利用者に優しく笑顔で接しており、利用者も笑顔で穏やかに過ごしている。ホーム内には家庭的な装飾や、遊び道具、趣味の品が用意され楽しい雰囲気で作られている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年の外部評価の取り組み項目については「地域とのつきあい」「運営推進会議」「家族への報告」などの項目において改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は各職員に評価表を配布しそれぞれが記入したものを管理者が取りまとめているが、その後の話し合いの機会は持たれていないため、取りまとめた自己評価について各ユニットの会議で内容を確認したり、記載内容を討議できる機会が確保できるよう期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は概ね3ヶ月に1度、地域包括支援センター職員、町内会副会長、利用者家族などが参加して開催している。運営報告のほか行事企画、サービス評価、地域交流などをテーマに意見交換し、議事録も整備している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の来訪時や運営推進会議にて家族の意見を聞いている。また玄関に苦情・意見箱を設置しており、重要事項説明書に外部の苦情受付機関も明示している。しかしながら、今以上に家族の意見を引き出す必要性を感じており、管理者が家族から個別に意見を聞ける場をつくったり、家族アンケートを実施することで、家族意見の引き出しと運営への反映に期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に参加し、ごみ拾いや資源回収に参加している。また、毎週事業所として「クリーンアップ活動」を行っており、地域で感謝されている。事業所で開催したバイオリンコンサートや七夕、流しソーメンに近所の方が訪問してくれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念の中に「地域と共に笑顔のある生活」という文言があり、地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。理念は2年程前に職員で話し合い、意見を集約して作成したものである。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を事業所の居間、スタッフルームに掲示しており、朝礼時に社訓と共に理念を唱和して確認している。一方、事業所のパンフレットにはまだ記載していない。	○	玄関に理念を記載したものを掲示したり、パンフレットに理念を記載したものを挟み込むなど、利用者の家族に対しても理念を共有できるような工夫を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加し、ごみ拾いや資源回収に参加している。また、毎週事業所として「クリーンアップ活動」を行っており、地域で感謝されている。事業所で開催したバイオリンコンサートや七夕、流しソーメンに近所の方が訪問してくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各職員に評価表を配布しそれぞれが記入したものを管理者が取りまとめているが、その後の話し合いの機会は持たれていない。前年の外部評価の取り組み項目については「地域とのつきあい」「運営推進会議」「家族への報告」などの項目において改善に取り組んでいる。	○	取りまとめた自己評価について各ユニットの会議で内容を確認したり、記載内容を討議できる機会が確保できるよう期待したい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね3ヶ月に1度、地域包括支援センター職員、町内会副会長、利用者家族などが参加して開催している。運営報告のほか行事企画、サービス評価、地域交流などをテーマに意見交換し、議事録も整備している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員が事業所の運営推進会議に参加しており、その際に情報提供をしてもらっている。管理者は区の管理者連絡会に参加し役員も務めている。ショートステイの検討、スプリング導入などでも市に相談している。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、その都度利用者の状況を報告している。また、ホーム便りを毎月作成して家族に送付しており、職員の交替や金銭出納明細についても適切に報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や運営推進会議にて家族の意見を聞いている。また玄関に苦情・意見箱を設置しており、重要事項説明書に外部の苦情受付機関も明示している。しかしながら、今以上に家族の意見を引き出す必要性を感じている。	○	管理者が家族から個別に意見を聞ける場をつくったり、家族アンケートを実施することで、家族の意見の引き出しと運営への反映を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職が最小限となるよう管理者が職員の悩みや話を聞くようにしている。また、法人間での異動は必要最低限としており、職員の離職がある場合でも過去に利用者のダメージが見られたケースはなく、職員全体でカバーできている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にできるだけ多くの職員を参加させており、各職員が年に2～4回程度研修に参加できるようにしている。また、研修実施後は会議などの場で研修報告も行われており、内部のカンファレンスに勉強会も組み入れている。職員には資格取得も奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム管理者連絡会に出席しており、同業者と交流する機会を持っている。一方、職員もグループホーム管理者連絡会の職員研修や区内の他のグループホームと相互訪問を行って交流機会を持っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規の利用者がある場合にはホームを見学してもらい、他の利用者と交流する場面をつくり、納得した上で利用を決めてもらっている。来訪が難しい場合は管理者が利用予定者に会いに行き馴染みの関係を築いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかたまり、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	魚の調理の仕方や洗濯物たたみ、戦争時の話などを職員が利用者に教えてもらうこともある。また、介助の際に利用者が職員に「助かったよ」「ありがとう」などの感謝の言葉をかけてくれる場面もある。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を言葉で表すのが困難な利用者も表情や仕草などから把握できるようにしており、新しい職員にも情報を伝えている。また利用開始時にアセスメント表を作成し、利用者の生活歴や思い、意向などの情報を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時のアセスメントや家族の意見に基づき、計画作成者が中心となって介護計画を作成しており、カンファレンスで職員の新たな意見を集約している。また作成した介護計画は家族に説明され、署名捺印を受けている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	独自の見やすい様式のモニタリング評価表を用い、毎月の会議の中でケアカンファレンスを行い、職員の意見交換の上、各利用者の介護計画の内容を見直している。各利用者の介護計画は3ヶ月ごとに見直しており、家族に説明している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物などの送迎を行ったり、家族がホームに宿泊を希望する際は寝具や食事を提供している。また、週2回のマッサージの訪問サービスを利用しているほか、隣のデイサービスの利用者と交流したり、車が不足する時はデイサービスのワゴン車を借りることもできる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の医師による定期訪問診療を受けている。提携医以外の受診は家族対応としているが、必要に応じて事業所で通院支援している。受診結果や血液検査の結果なども電話や郵送にて適切に家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の事業所の対応できる範囲について家族に説明し、「重度化した場合における対応に係る指針」を取り交わしている。開設時から看取り経験者が3名おり、その後看取りを経験した職員が増え、提携医の確保と共に体制が整いつつある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮した声かけや対応が行われており、外部講師による接遇マナーの研修も行われている。また、個人の記録はスタッフルームに安全に保管・管理しており、介護記録も他の利用者に見えないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが利用者は概ね自由に過ごすことができおり、起床や食事、散歩、レクリエーション参加なども本人の希望を聞きながら参加を無理強いせず、利用者のペースに合わせている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	静かな音楽をかけたりビデオをかけたりして、利用者と職員は会話しながら楽しく食事をしている。事業所で作成した献立に基づく食事が提供されており、各ユニットでは最低でも職員1名が利用者と同一食事を摂っている。また、食事の準備や後片付けを利用者の力を活用しながら行っている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は希望すれば毎日入浴することができ、各利用者は週2回程度を目標に入浴を行っている。時間帯は午後が中心となっているが、入浴の長さは利用者の健康に問題のない範囲で希望に合わせている。また、浴室を暖めたり入浴剤を使って工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳や食器洗い、洗濯物たたみ、畑仕事など利用者は個々の能力に応じて役割を持っている。レクリエーション活動、マージャン、ビデオ鑑賞や、1階と2階の交流を行い楽しんでいる。クリスマスや七夕、焼肉パーティーなどホーム内の行事も活発である。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は毎日のように散歩に出かけたり、食材の買出しに利用者と一緒に行っている。年間行事が豊富で、温泉1泊旅行や同法人経営の3つのグループホームでの合同行事もある。また、毎月のようにホテルやビール園などに外食に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を理解し、日中は玄関の鍵をかけていない。ユニットの出入口付近に事務所を配置し、利用者の外出を把握している。万が一利用者が外出した場合は、近所の方から情報提供などの協力も得られている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。一方、地域の方への緊急時の協力依頼はまだ十分とはいえず、職員の救急救命訓練も定期的に行われてはいない。	○	災害時の地域との協力体制について、隣接するデイサービスや近隣とお互いの話し合いによる協力体制の確認を期待する。また職員の定期的な救急救命訓練の受講についても期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は事業所で作成しており、管理者が食材の種類や量からカロリーや栄養バランスを調整して提供している。また、毎日食事や水分の摂取量を記録し、個々の健康状態や過不足に応じて調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には行事の写真や家庭的な装飾が施されている。トイレや浴室も広く、手すりも十分に設置されている。また温度、湿度なども調整され、居心地よく快適に過ごせるようになっている。活動意欲の出る遊び道具や趣味の道具も用意されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具やテレビなど馴染みの品物を自由に持ち込み、安心して過ごせる場所となっている。壁にも写真やカレンダーなど利用者は自由に飾り付けをしている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。